

『啓迪集』の脈法

中川 俊之

日本鍼灸研究会

『啓迪集』は曲直瀬道三の編纂による医方書である。全8巻77門に病證を分類している。本発表においては、『啓迪集』の脈状を取り上げ、引用書、脈状の記載数、記載方式などの検討を行った。

検討結果

1 引用医書と回数 『啓迪集』における脈状記載は、各門に有る「脈弁」の項に記載される他、随所に散見する。引用医書とその回数は、『医学正伝』（54回）、『玉機微義』（50回）、『医林集要』（28回）、『活人指掌』（9回）、『傷寒百問』（8回）、『丹溪心法』（3回）、『惠濟方』（3回）、『医方選要』（3回）、『医林正宗』（1回）、『外科集驗方』（1回）、『諸症弁疑』（1回）、『婦人良方』（1回）、『外科精義』（1回）など、13書から165箇所引用が認められた。

2 各門に見える脈状数 78門で構成される病證のうち、59門に脈状の記載が有り、計620脈状が見られた。

【各門における脈状所見数】〈（ ）内数字は脈状所見数〉

啓迪集弁引(2)【巻一】中風門(18) 傷寒門(124)【巻二】中寒門(6) 中暑門(3) 中湿門(3) 瘧疾門(9) 痢病門(18) 泄瀉門(7) 咳嗽門(6) 痰飲門(3) 喘急門(11) 水腫門(10) 脹滿門(7) 積聚門(4) 霍乱門(11)【巻三】翻胃門(12) 頭痛門(14) 心痛門(7) 腹痛門(9) 腰痛門(13) 脇痛門(3) 脚気門(11) 痛風門(4) 痺証門(5) 黄疸門(4) 消渴門(8) 淋病門(4) 疝気門(6) 血証門(7) 衄血門(10) 嘔血・吐血門(4) 下血門(5) 尿血門【巻四】諸気門(14) 諸虚門(10) 内傷門(13) 勞瘵門(8) 汗門(5) 怔忡動悸門(4) 眩暈門(6) 燥門(3) 火熱門(13) 遺精門(2)【巻五】鬱門(14) 心下痞滿門(7) 諸虫門(7) 中惡門(10) 狂癲門(11) 瘧証門・厥証門(10) 痔漏門(2) 損傷門(12) 眼目門(3) 耳病門(9) 鼻病門・唇舌門(6) 咽喉門(5) 牙齒門(3) 鬚髮門【巻六】瘡瘍門(41) 癩風門(1) 救急門【巻七】婦人門 月経和違篇(8) 帶下篇(3) 婦人雜証篇(1) 胎前篇(2) 産後篇(20) 小兒門・痘疹篇(1)

3 脈状の種類 脈状の種類は60種近く記載されている。浮脈、沈脈が最も多く見え、浮数(16回)、浮大(14回)、浮緊(13回)、浮緩(12回)と、沈細(18回)、沈滑(8回)、沈数(8回)、沈小(7回)などの複合した脈状として表記されている。

【主な脈状の種類と所見数】

浮(単脈状記載23回、他脈と併記90回)、沈(18回、91回)、弦(32回、30回)、微(12回、25回)、洪(4回、31回)、瀦(瀦) (16回、16回)、滑(9回、20回)、大(13回、15回)、緊(9回、15回)、虚(8回、14回)、数(13回、9回)、実(11回、7回)、細(5回、11回)、遲(4回、10回)、緩(6回、7回)、急(2回、10回) 小(4回、5回)、長(5回、4回) 濡(2回、6回)、代(5回、2回)、芤(3回、3回)、盛(1回、5回)、短(他脈併記のみ6回)、伏(2回、2回)、弱(単脈状記載のみ4回)、散(単脈状記載のみ3回)、結(単脈状記載のみ3回)。

4 結論 『啓迪集』における脈状の記載は『医学正伝』、『玉機微義』など13書の引用から構成されており、全78門中59門に記載が有り。脈状の内容は浮脈、沈脈を中心としている。